

新生活のご報告

第5期OB 細川 晋吾

新生活——。

無論、この言葉は文字通り「新しい「生活」を意味しているわけですが、「生活」の定義って何なのだろうかと思い、辞書でひいてみると「生きて活動する」という広義の解釈のほか「生計の道を立てる」という解釈の方法もありました。つまり、生活するということは、「手段」「計画」といった自発的・積極的な意味合いもあるということです。昨年4月より住友不動産に入社し、未熟ながらも自らの



2007年度商学会賞受賞時の著者。共著者たちと

生活や仕事について自発的に考える場面も増えてきたのかなあと感じております。今回は、「どんな活動をしているのか」「どんな生計の道を模索しているのか」について、学生時代から変化したことを書いてみたいと思います。



著者の「出世部屋」。インテリアと彼女は、まだこれから

◆住まい

水道橋にある会社の寮に引っ越しました。6畳ワンルームの小さい部屋ですが、立地の利便性があることに加え、洗濯機、乾燥機、キッチンといった、最低限生活に必要な設備が揃っているのがありがたいです。キッチンはまだ使ったことがほとんどありませんが(笑)。会社の先輩方は3年目くらいになると、マンションを買い始めるようですが、20代前半で住宅ローンを支払い始めるのは、何となく心が狭くなってしまような気もするので、きっと6年くらいは

この際にお世話になるかもしれません。あるいは、全く予定の無い話ですが、彼女ができたならもう少し快適な賃貸マンションにでも移りたいものです。

◆仕事

今年度から、新入社員の部署配置には、2か月ごとに様々な部署を回るジョブローテーションのシステムが採用され、現在、私はマンションの企画・開発を行う部署に所属しております。



2008年度商学会賞受賞時の著者。同じく二冠を達成した同期と

この部署では、用地を取得する部隊が仕入れてきた（あるいは、仕入を検討している）土地に対して、売上が最も高くなるように、どのような建物をどのくらいの規模で建て、どのように売っていくのかについて基本的な構想を企画していきます。社内では、延床面積を最大化することでいかにして売上を確保していくかが主に議論されていますが、それだけだと1つ1つの建物は没个性的になってしまいが

ちです。売上を最大限確保していくなかで、「独自性」を発揮して、いかにしてエンドユーザーに対して新しい住み方、あるいは働き方を提案できるかを考えねばならないなあと感じています。

現在は高円寺の土地にマンションを建てるプロジェクトを任されています。利益が億単位になるプロジェクトなので、プレッシャーもありますが、独自性をモットーに企画を考えていきたいです。

◆休日

仕事が終わらず、休日も出勤なんてこともあります。休める日はなるべく休みをとるようにしています。休日はなるべく外出をして、新しいことにチャレンジしているつもりです。とはいうものの、仕事に忙殺され、3月の休日は未計画。手帳の休日欄は結構空いていたりします（笑）。そもそも1週間のうち、休日は最大限取れても2日しかない貴重な日ですので、仕事の予定を入れる前にプライベートの予定を入れてしまうという方法も得策なのではないかと思いつつ、今、ペンを走らせている次第です。

以上、色々とりとめのないことを長々と書いてしまいましたが、このようなエッセイを書かせて頂けるのも、小野ゼミとの出会いあってのことだなあと感じ、大変感謝しております。これからの沢山の人達との出会いも大切ですが、これまでお世話になった場所や人達は私の一番の財産です。これからも小野ゼミの行事にはなるべく参加していく所存ですので、どうぞ宜しくお願い申し上げます。